

FM English Basic 講義レポート

Group D

背景

アカデミックライティングのスキルは、研究および論文作成を行う上で重要なものである。授業前の知識として、我々は母国語で(日本人学生であれば日本語で)論文を書くことはできており、その際に気をつけるべきことを実体験的に知っていた。しかしながら、英語で書く際に使用すべき書き方や、より一般的で広範的なアカデミックライティングの規律を十分に把握しているとは言いがたく、メタ的な観点からの学習が必要とされた。

目的

本授業の目的は、FM English basic のシラバスによれば、「英語論文作成の基礎を理解し、英語圏でのロジック展開をふまえたコミュニケーション力の習得を目指す。さらに、英語でのプレゼンテーションに役立つスキルを学ぶ」ことにある。また、到達目標として、「①英語論文の構成を知る。②英語論文作成の基礎を理解する。③論理的な英語で発言できるスキルを育成する。④国際学会でプレゼンテーションをする際に役立つスキルを身につける。」の4点が挙げられていた。

方法

授業は下に表示した、Academic Writing: A Handbook for International Students (English Edition)というテキストを用いて行われた。

(画像の引用元：

https://www.amazon.co.jp/dp/B077YQYNP3/ref=dp-kindle-redirect?_encoding=UTF8&btcr=1)

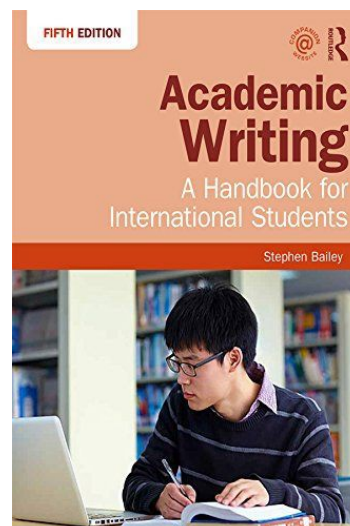
2020年8月3日（月）

13：00～17：00 Academic Writingとは何か、academic writingの目的、academic writingの種類、と書式を学んだ。各科目にディスカッション、練習、発表など

2020年8月4日（火）

13：00～17：00 Academic writing の書き方、ノートメイキングと段落作成、リーディングメソッドを学んだ。各科目にディスカッション、練習、発表など

2020年8月5日（水）



13 : 00~16 : 00 批判思考、Plagiarism、paraphrasing とサマリの書き方を学び各科目にディスカッション、練習、発表

2020年8月6日（木）

13 : 00~17 : 00 研究内容に関するショートプレゼンテーション・それに対する相互評価

結果

FM English Basic全体から、Academic Writing の目的、種類、書式を学ぶことができた。授業中には、Academic writing をするためstep-by-stepの方法を教えていただき、ディスカッションと書く練習時間までも提供してくださり有効的だと思った。そして、Plagiarismという問題も触れ各グループで議論をしたり発表をしたりする中でplagiarismについて理解を深められた。さらに、PlagiarismをしないようAcademic writing を書く際にparaphrasingやcitationを確実にすることを学んだ。

最終日に発表とショートスピーチについて学んだ。8月6日（木）の13時から授業が開始され、研究発表のルールを説明して頂いた。発表の形式は以下の様に決められた。発表が3セッションに分かれ各セッションに7人ずつ研究発表を行う。各人は7分の発表をしてから3分程度聴衆からのフィードバックをチャットでもらう。各セッションの最後に2日目に決めてもらったエバリュエータから2分程度口頭で評価（フィードバック）をもらう。

参加者が時間を守り各プレゼンテーションは時間内に終了した。発表者はそれぞれが自身の専門分野について発表しましたが、聴衆が理解しやすいように内容を易しく説明したり、スライドに図や写真を使い工夫をしていた。そして、様々な発表スタイルで聴衆の注目を引き付ける様子も見られた。全体として発表セッションは順調に行われた。

発表者が各セッションに発表してからエバリュエータが評価をした。発表者を評価するために様々な視点からの助言があった。評価者は内容を評するだけではなく、発表者の表情、イントネーション、発音、ジェスチャー、音声についても話した。オーディエンスが発表を理解しやすいためスライドのデザインや発表スタイルに関する助言も多く述べられた。

改善点や限界

今回のFM English Basicの授業は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために、オンラインで開催されました。慣れない英語での講義が、マイクやスピーカーなどの機械を通して行われていたため、普段英語を使っているわけではない参加者の方々にとっては辛い場面もあったと思われる。

また、短期集中の授業ということで、3日間で学んだことを生かして4日目に自分の研究に関する発表をしあい、互いに評価するという形式だったが、研究発表に向

けたスライドの作り方のレクチャーは多くはなかった。そのため研究発表スライドの作成技術は個人に依存しており、研究発表に慣れていない方々は困惑していた様子だったと思われる。1日あたりの授業時間数をもう少し短くし、生徒側に授業内容を理解し定着する時間を設けると学んだことを自分の研究発表に活かせるのではないかと感じた。

結語

今回、FM Academic Writing の講義を通して、科学雑誌に掲載するような論文をどのように書けば良いのかを学んだ。論文を書くには論理性や公正さが求められる。論理的に書くためには各段落ごとのキーワード・キーセンテンスを意識した作文が必要である。公正に書くためには、すなわち、先行研盗作・盗用しないためには、正しい引用方法や言い換え方法を知っておく必要である。今回のFM English Basicの講義で学んだことは実際に論文を書く際に多いに役立つと感じた。

引用文献

Amazon公式サイト (2020.8.20閲覧)

https://www.amazon.co.jp/dp/B077YQYNP3/ref=dp-kindle-redirect?_encoding=UTF8&btkr=1

FM医療概論シラバス, 未来型医療創造卓越大学院プログラムホームページ
(2020.8.20閲覧)

https://www.fmhc.tohoku.ac.jp/wp-content/themes/agpfmhc_official/images/pdf/fm_pdf_6.pdf